

## ▼ ファームウェア アップデート手順書

**YAESU**  
The radio

### FTDX5000シリーズ共通

本製品をいつも最高の状態でご愛用頂くために、最新のファームウェアにアップデートされる事をお勧め致します。本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ<sup>\*1</sup>と市販のシリアルケーブル<sup>\*2</sup>をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっています。（“ファームウェア”とは、本体内部で動作しているソフトウェアの事です。）

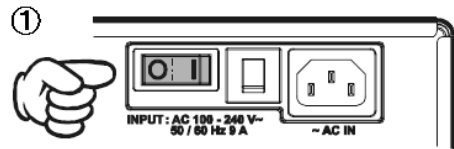
（お客様での作業は、本手順書を最後までよくお読みになり、作業の流れをご理解頂いた上で、ご自身の責任において行って下さい。正しく作業が出来なかった場合の不具合につきましては、弊社にて有償で保守を承ります。）

#### 1. ファームウェアのバージョンを確認します。

##### ■ ファームウェアのバージョンを表示させます。

手順①. 背面にある【主電源】スイッチを入れます。

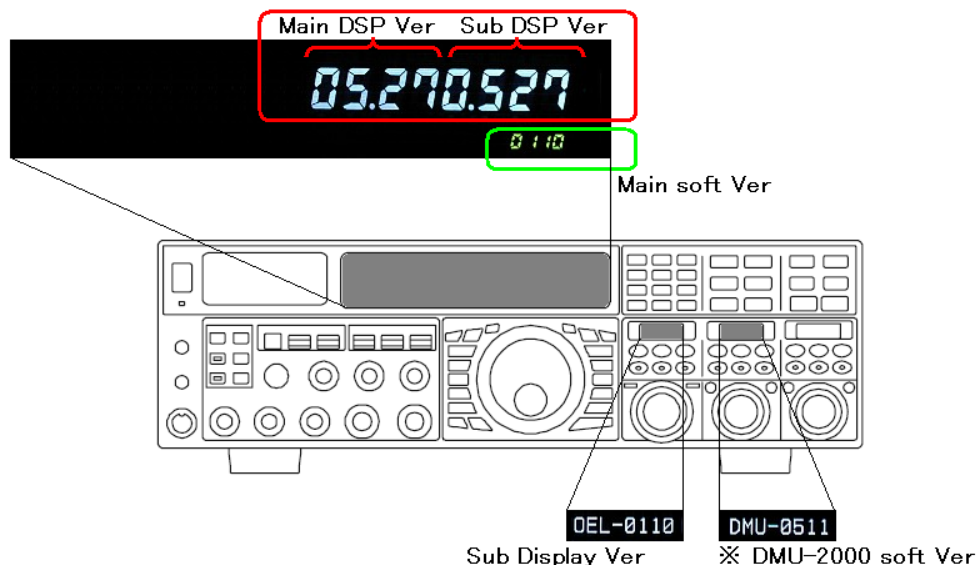
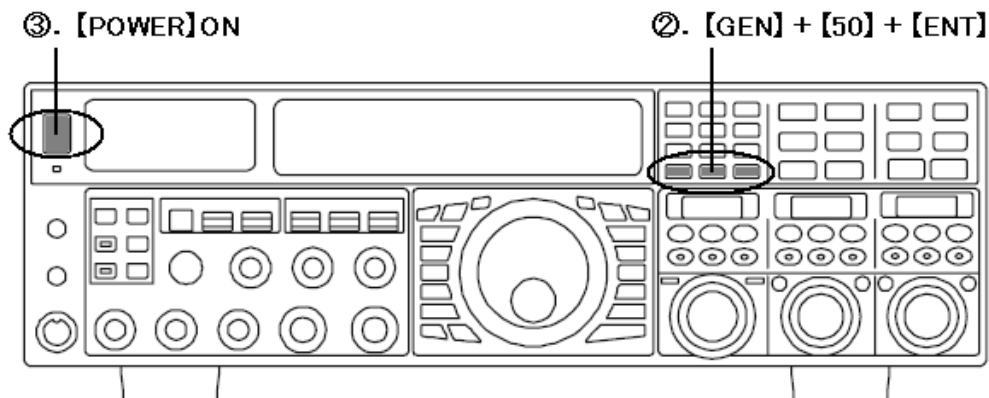
（このときは未だ前面側の【POWER】スイッチは入れないで下さい。）



手順②. 【GEN】、【50】、【ENT】 3つのキー位置を確認します。

手順③. 手順②のキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。

##### ■ この手順によりファームウェアのバージョンが一定時間だけ表示します。



## 2. 最新ファームウェアのバージョンを WEB で確認します。

■ 当社のホームページよりファームウェアの最新情報を確認して、上記手順で表示した数字より更新されていたら、続く手順によりアップデートすることをお勧めします。

■ FTDX5000 シリーズには、以下3項目それぞれに専用のファームウェアがありますので、必ず同時期の物がアップデートされているかをご確認下さい。

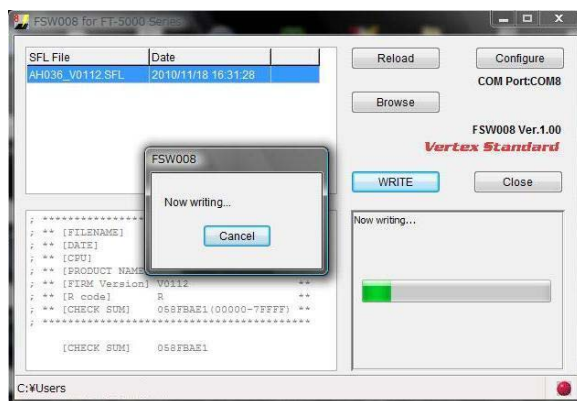
- ①. メインファームウェア（システム本体のファームウェアです。）
- ②. DSPファームウェア（メイン送受信機と、サブ受信機、それぞれのDSPに関するファームウェアです。）
- ③. サブディスプレイファームウェア（SUB DIAL 上の OEL 部のファームウェアです。）

※ DMU-2000 が接続されていたら、サブディスプレイ2に、DMU-2000 にロードされているファームウェアのバージョンが表示されます。（DMU-2000のアップデートは本件には含まれません。）

## 3. ファームウェアが更新されていたら次の手順でアップデートします。

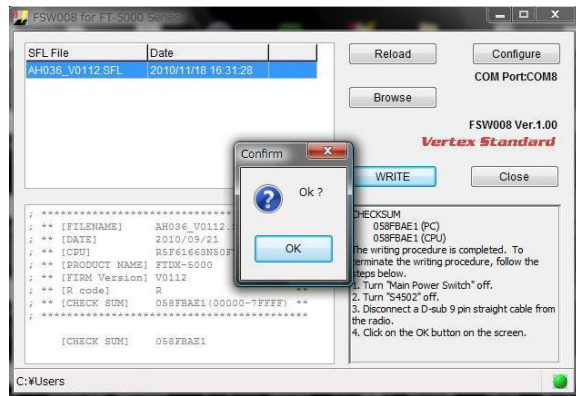
### ①. メインファームウェアの更新

- ・ 前面パネルの【POWER】スイッチ、続いて背面の【主電源】スイッチを切ります。
- ・ 本体背面の PGM スイッチをようじなどの絶縁物で出来た先の細い物で背面から見て右にスライドさせます。（切替スイッチは頻繁な操作に耐えるものではないため、無理な力を加えないよう取扱にはご注意下さい。）
- ・ 予め用意されたパーソナルコンピューター（以降PC※<sup>1</sup>と表記）、本体背面CAT端子間を、用意されたシリアルケーブル※<sup>2</sup>で接続し、さらに本体には電源ケーブルのみ接続し、接続したPC※<sup>1</sup>を起動します。（※<sup>1,2</sup>の詳細は、本説明書の“5. 用意するものについて”をご参照下さい。）
- ・ PC※<sup>1</sup>の転送ソフト FSW008.exe を起動し、本機背面の【主電源】スイッチのみをONとして、転送ソフト FSW008.exe 上で同時にダウンロードした最新のファームウェアのファイル AH036\_VXXXX 拡張子 SFL を選択し、[WRITE] をクリック。本機に転送します。（実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“6. トラブルシューティング”をご参照下さい。）



- ・ 転送時間は、ご用意頂いたPC※<sup>1</sup>の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意下さい。

- ・ 転送が完了すると、転送ソフト画面に、右図のような [OK] ボタンが現れますので、クリックして転送ソフトを終了させます。続いて、本体背面の電源スイッチを切り、シリアルケーブル<sup>※2</sup>を本体から外して、本体背面の PGM スイッチを元の位置に戻します。



- ・ 再び本機背面の【主電源】スイッチをONとした後、前面パネルの[FAST]キーと[LOCK]キーを同

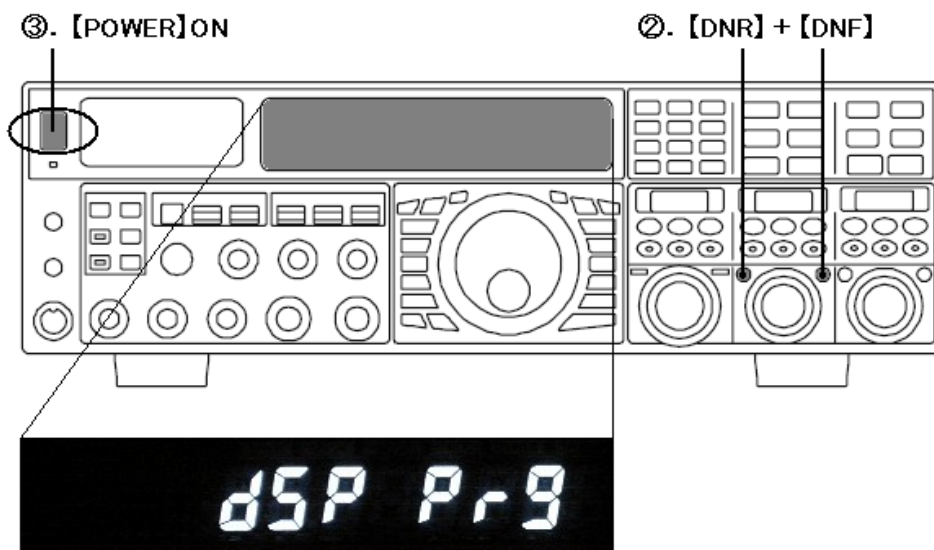
時に押しながら本機前面パネルの【POWER】スイッチをONとしてリセット・スタートさせます。

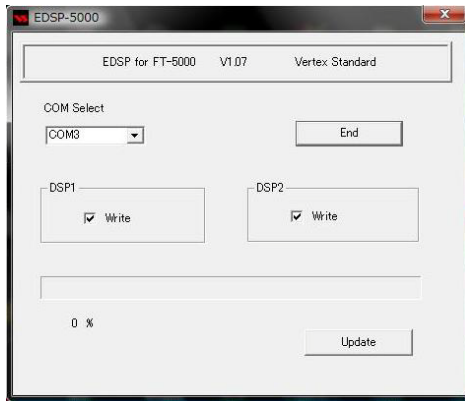
※ この時、周波数メモリーや拡張メニュー設定などが初期化されますので、予めご注意ください。

- ・ さらに本機前面パネルの【POWER】スイッチをOFFとして、1項のバージョン確認方法によりファームウェアが更新されたことが確認出来たら作業完了です。

## ②. DSPファームウェアの更新

- ・ 本文1項のバージョン確認方法により、メインファームウェアの更新（もしくは最新であることを確認）が完了したら、続いてDSPのファームウェアを更新（もしくは最新であることを確認）します。
- ・ DSPのファームウェアの更新作業は、メインファームウェアの作業で操作した背面スイッチの操作は不要です。予め用意されたPC<sup>※1</sup>と、本機背面CAT端子間を、ご用意頂いたシリアルケーブル<sup>※2</sup>で接続し、さらに本機には電源ケーブルのみ接続し、PC<sup>※1</sup>を起動します。
- ・ 以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチをONとし、続いて下図を参考に、VFO-A SELECT側の【DNR】、【DNF】2つのキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。電源が入ると、表示に下図に示す dSP Pr9 表示が出て、DSPのファームウェアの書き込みモードとなります。





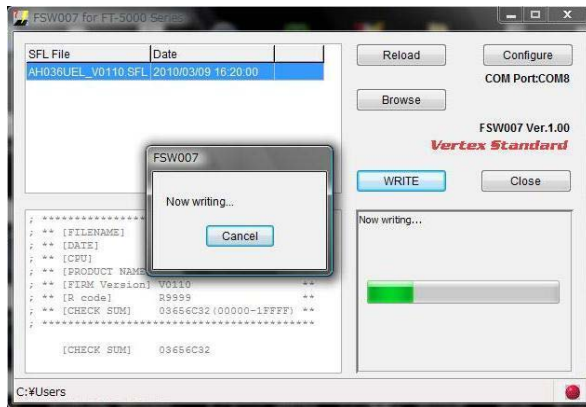
- ・ 接続したPC<sup>※1</sup>にセットアップしておいたDSPファームウェアの転送ソフト“EDSP-5000.exe”を起動し、[ Update ]をクリック。対象の“AH036H\_vXXXX 拡張子.dat”ファイル最新版を選択して[ 開く ]をクリック。PC<sup>※1</sup>からの書き込みが始まります。(実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“6.トラブルシュート”をご参照下さい。)

- ・ 転送時間は、ご用意頂いたPC<sup>※1</sup>の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。
- ・ 転送が完了したら本機前面の【POWER】スイッチにより電源を切り、RS232Cケーブル<sup>※2</sup>を本機から外し、PC<sup>※1</sup>のファームウェア転送ソフトを終了させます。(※1.2の詳細は本説明書の“5.用意するものについて”をご参照下さい。)
- ・ 最後に本機前面パネルの[FAST]キーと[LOCK]キーを同時に押しながら同前面パネルの【POWER】スイッチをONとしてリセット・スタートさせて完了です。

### ③. サブディスプレイファームウェアの更新

- ・ 本文1項のバージョン確認方法により、メインファームウェアの更新（もしくは最新である事を確認）が完了したら、続いてDSPのファームウェアを更新（もしくは最新である事を確認）し、続いてサブディスプレイのファームウェアを更新（もしくは最新である事を確認）します。
- ・ サブディスプレイのファームウェアの更新作業は、DSPファームウェアの作業と同様、背面スイッチの操作は不要です。予め用意されたPC<sup>※1</sup>と、本機背面CAT端子間を、ご用意頂いたシリアルケーブル<sup>※2</sup>で接続し、さらに本機には電源ケーブルのみ接続し、PC<sup>※1</sup>を起動します。
- ・ 以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチをONとし、続いて下図を参考に、VFO-B SELECT側の【DNR】、【DNF】2つのキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。電源が入ると、表示に下図に示す 0LEd Pr9 表示が出て、サブディスプレイのファームウェアの書き込みモードとなります。



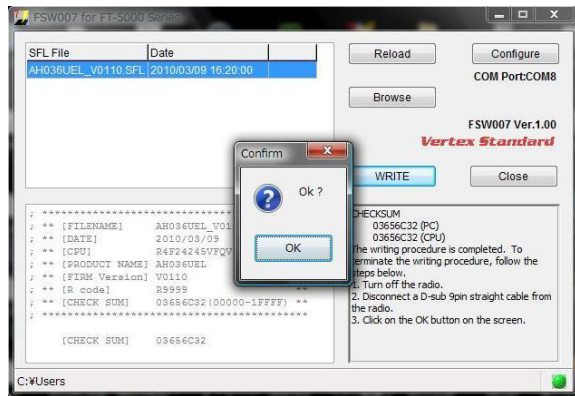


- ・ 接続したPC※<sup>1</sup>にセットアップしておいたDSPファームウェアの転送ソフトFSW007.exeを起動し、対象のAH036UEL\_VXXXX拡張子SFLファイル最新版を選択して[WRITE]をクリック。PC※<sup>1</sup>からの書き込みが始まります。(実行が正常に

出来ない場合は、本説明書巻末の“6.トラブルシュート”をご参照下さい。)

- ・ 転送時間は、ご用意頂いたPC※<sup>1</sup>の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。

- ・ 転送が完了すると、転送ソフト画面に、右図のような[OK]ボタンが現れますので、クリックして転送ソフトを終了させます。続いて、本体背面の電源スイッチを切り、シリアルケーブル※<sup>2</sup>を本体から外して、再び本機背面の【主電源】スイッチをONとした後、前面パネルの[FAST]キーと[LOCK]キーを同時に押しながら本機前面パネルの【POWER】スイッチをONとしてリセット・スタートさせます。さらに本機前面パネルの【POWER】スイッチをOFFとして、1項のバージョン確認方法によりファームウェアが更新されたことが確認出来たら作業完了です。転送が完了したら本機前面の【POWER】スイッチにより電源を切り、RS232Cケーブル※<sup>2</sup>を本機から外し、PC※<sup>1</sup>のファームウェア転送ソフトを終了させます。(※<sup>1,2</sup>の詳細は本説明書の“5.用意するものについて”をご参照下さい。)



#### 4. アップデートされたバージョンに対応した取扱説明書を取得します。




アップデート作業後は、本機に対応した取扱説明書(PDF)をダウンロードしてご確認ください。

#### 5. 用意するものについて

##### ■ ファームウェア転送ソフトのセットアップ。

この手順書では、本機内にある2つのシステムにアップデートを行う必要があるため、お客様がご用意頂く、パーソナルコンピュータ(PC※<sup>1</sup>)には、以下2つの転送ソフトをダウンロードしてセットアップしておきます。弊社のWEBページより、それぞれのZIPファイルをPC※<sup>1</sup>内に適当に作ったフォルダにダウンロードします。フォルダ内に保存したZIPファイルを解凍して、展開した全ファイルを、インストールするPC※<sup>1</sup>の

デスクトップなどにコピーします。

- ①. メインファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“FSW008.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH036\_VXXX 拡張子 SFL” ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。
- ②. DSPファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“EDSP-5000.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH036H\_vXXX 拡張子 dat” ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。
- ③. サブディスプレイファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“FSW007.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH036UEL\_VXXX 拡張子 SFL” ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。

■ **アップデート用に適したパーソナルコンピューター（PC<sup>\*1</sup>）の条件は・・・**

- ・ COM（RS-232C）PORT のある パーソナルコンピューター
- ・ Microsoft Windows 2000 以上のオペレーティング・システム
- ・ ファームウェアとその転送ソフトインストール用に30MB以上の空き容量のあるハードディスク
- ・ 256MB以上のRAM
- ・ 1024×768の画面解像度、256色以上をサポートするビデオカードとディスプレイ

■ **作業に適したシリアルケーブル<sup>\*2</sup>は・・・**

使用可能なシリアルケーブル<sup>\*2</sup>は、市販のRS-232C規格で、フル結線のストレートタイプをご用意下さい。市販品の多くは、コネクタ部のオスメスが合致しますが、まれにオスメスが逆のタイプもありますので、事前にご確認下さい。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば、同環境で作業は可能です。

## 6. **トラブルシュート**

■ **弊社のホームページでダウンロードできるファームウェアは圧縮（ZIP）ファイルです。**

取得したZIPファイルは、解凍して展開した全ファイルを、インストールするPC<sup>\*1</sup>のデスクトップなどに適当なフォルダを作り、コピーして使用します。（解凍して展開された転送ソフトのEXEファイルをそのままクリックしても起動しません。）

■ **転送ソフトを起動しても、COM（RS-232C）PORT を認識しない場合は・・・**

接続したシリアルケーブル<sup>\*2</sup>のCOM（RS-232C）PORTのCOM番号の優先順位が低い場合などでは、そのまま転送ソフトを起動しても COM port Error 表示が出て転送できない場合があります。その場合には、メインファームウェアの転送ソフト“FSW008.exe”、“FSW007.exe”では、転送ソフト画面内の [Configure] の設定により、接続したシリアルケーブル<sup>\*2</sup>のCOM番号と同じ物を選択することで転送が実行されます。

同じく、DSPファームウェアの転送ソフト“EDSP-5000.exe”を起動しても COM port Error 表示が出て転送できない場合は、転送ソフト画面内の“COM Select”により、接続したシリアルケーブル<sup>\*2</sup>のCOM番号と同じ物を選択することで転送は実行されます。

■ **COM（RS-232C）PORT がないパーソナルコンピューターの利用について・・・**

ノート型や、デスクトップで小型の物などでは、USB PORT だけで、COM（RS-232C）PORT が無い場合がありますが、市販のUSBシリアル変換ケーブルを利用する事で作業は可能です。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば同環境で作業が可能です。

接続したUSBシリアル変換ケーブルで増設したCOM（RS-232C）PORTを認識しない場合の多くは、パーソナルコンピューターのオペレーティング・システムが、USBシリアル変換ケーブルの接続に伴い、自動

的にデバイスドライバーを設定されたままの場合が多く、オペレーティング・システムのデバイスマネージャでは増設したCOM PORTが確認できていても、転送ソフトがそのCOM番号を認識できない場合があります。その時には自動で設定されたデバイスドライバーをオペレーティング・システムのデバイスマネージャで削除した後、接続したUSBシリアル変換ケーブルを一旦外し、ケーブルメーカーのWEBサイトで、使用するオペレーティング・システムに対応したUSBシリアル変換ケーブルの最新のデバイスドライバーを入手してインストールした後に、改めてUSBシリアル変換ケーブルを接続することで正常に認識することが報告されています。

**本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ<sup>※1</sup>と市販のシリアルケーブル<sup>※2</sup>をご用意顶ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっておりますが、本手順書の要領が不明なまま作業を行うと、本機が起動不能となるなど重大な不具合を引き起こしますので、本書を最後までよくお読みになり、ご自身の責任において行って下さい。アップデート作業は、お客様のご希望により、弊社でも有償で作業を承ります。**